

備前市事務事業評価シート

(平成24年度事業)

事業の概要		事業開始年度	平成17年度	根拠法令・例規等	医療法、備前市国民健康保険市立吉永病院	
総合計画	大項目	基本目標	02	健康でやさしさあふれるまちづくり	問担当課(室)	
	中項目	基本施策	07	健やかで生き生きとしたまちづくり		市立吉永病院事務部
	小項目	施策	02	病院事業		医事係長 繁光麻友美
事務事業名		11	吉永病院診療事業	職・氏名	0869-84-2120	
					このシート作成に要した時間	6.0 時間

事業の目的		Plan
対象(誰・何に対して)	病気の治療及び予防を必要とする人	
目的(何のために)	安全で質の高い医療サービスを提供し、親しまれ、必要とされる病院となる	
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	安心安全な医療が受けられる環境整備と良質な医療を提供し、患者数の増加を図り、経営基盤の強化を目指す。	

事業の実績		Do	
目的を達成するため実施した事業	細事業名	事業の説明	優先度
	収納事業(未収金対策)	未収金の回収業務	
	診療事業/入院	入院による診療サービスの提供	
	診療事業/外来	外来による診療サービスの提供	
	検診事業/検診	住民健診、企業健診による市民等の健康管理の提供	
	地域連携事業	病院と診療所での連携・病院と病院との連携・介護福祉施設等との連携を図り、患者さまによりよい医療サービスを提供	
	相談事業	患者の不安や介護事業などの相談業務	
	相談事業	各種法令に沿った申請、届出等医療事務サービスの提供	

決算額	事業費等		単位	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度実績
	事業費	直接事業費	千円	1,102,602	1,139,827	1,153,317
	必要人員	人件費	千円	95.13人	644,418	96.03人
	事業費	費計	千円	1,747,020	1,694,933	1,734,152
	財源	国庫支出金	千円			
		受益者負担	千円			
		繰入金	千円	79,461	77,780	76,640
		市金	千円			
	その他( )	千円				
	一般財源	千円	1,667,559	1,617,153	1,657,512	
受益者負担比率	%	-	-	-		
結果指標名	単位	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度実績		
入院、外来患者延数	説明	入院患者、外来患者の年間延べ人数				
結果指標量	人	17,105	106,837	17,158		
対前年比	%	-	100.3%	97.3%		
活動コスト	円	634,060,943	1,038,923,076	667,540,827		
単位当たりコスト	円	37,069	9,724	38,906		

事業の成果		年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度目標値
成果指標名	目標値(A)	96	96	96	96	
	実績値(B)	93.7	93.8	93.3	到達目標値	
	達成率(B/A)	97.60%	97.71%	97.19%	96	
成果指標設定の考え方・式や説明						
安定した病院経営をするためには、収益の確保と維持が重要である。このため、経営の効率化に経営指標(収支改善、経費削減、収入確保、経営の安定性等)の中から、収入確保に係るものとして病床利用率を成果目標として選択し、目標値を設定。 病床利用率(%) = 入院延患者数 ÷ 診療日数(365日又は366日) ÷ ベッド数(50床)						

事務事業の評価		該当する項目を から へ く 「コピー」して「貼り付け」してください	Check
妥当性の評価	市の関与の妥当性	市が実施するよう法令で義務づけられている 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない 事業の内容が一部の受益者に偏っている 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である 事業開始当初の目的から変化してきている 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある	妥当性評価 A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い い A
	市民ニーズ	市民・団体等から要望・要請が強い	
効率性の評価	コスト	単位当たりコストは前年度と比較して改善している 実施方法(派遣・委託含)を見直すことでコストを下げる余地がある 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい 受益者負担率は適正である 受益者負担率を見直す余地がある	効率性評価 A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い い C
	目的達成度	現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	
有効性の評価	市民参画度	成果指標の設定は適切である 成果指標の到達目標値は達成できそうである 成果指標達成率は前年度と比較して向上している 成果指標達成率は80%未満となっている 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない 法定事務・内部管理事務 であり成果は求めにくい 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している	有効性評価 A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い い B

進行年度(H25年度)の改革改善内容	
状況	拡充 現状継続 見直し 縮小 整理統合 休止 廃止・完了
説明	未収金対策と適正収入の確保に取り組むほか、昨年立ち上げた地域連携室の精度を深め、医療・介護連携を図り信頼される在宅生活の継続支援を行う。 これまで同様、特定健診、各種人間ドックなどの健診事業により、地域住民の健康管理に貢献できるよう務める。

総合評価		総合評価
平成24年度では、入院、外来ともに患者数の減により医療収益が減少した。医療圏内の人口は減少しており、外来患者数の増加は見込めないため、今後は在宅医療サービスに重点を置いていくことが必要となっている。 電子カルテ導入による各部門間の連携で医療サービスの充実を図ったが、今後も患者満足度向上に努め、市民に信頼される医療機関を目指す必要がある。		A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い い B

平成26年度の方向性・取組目標		Action
方向性	拡充 現状継続 見直し 縮小 整理統合 休止 廃止・完了	
取組目標	効率的で質の高い医療を提供するため、病院間で開示又は閲覧できる地域医療情報ネットワークを推進する。 経営の改善について、薬局部門において調剤機の更新により薬の待ち時間の短縮に努め、患者満足度の向上を図り、外来収益の増を目指す。	

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の目的やその数値目標で  
ある成果指標に留意しな